

令和3年9月1日(水)

皆さん、おはようございます。校長の野澤です。夏休み前には想像もできなかった、いえ、想像はしていましたが、それを遥かに超える緊急事態のもとに、今の日本全体が置かれています。報道等で御覧になった方も多いと思いますが、学校の第2学期始業を多くの専門家が危ぶんでいました。感染予防対策に、これまで以上に気を配らなければならない状況であることは、今さら私が申し上げるまでもないでしょう。

皆さんは「津波起きたら命てんでんこ」という言葉を聞いたことがありますか。津波被害が多い三陸地方で伝わる言葉ですが、これは「津波が起きたら各自の判断で、てんでばらばらに高台へ逃げて自分で自分の身を守れ」という意味です。東日本大震災の時に、この教えを守った岩手県釜石市の小中学生は、自分たちの判断で高台に向かって走り出し、ほぼ全員が無事でした。これが「釜石の奇跡」と呼ばれる出来事です。昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大は、いわば地震津波にも相当する、誰にも止められない大災害であり、「自分で自分の身を守る」ことが求められています。

ウイルスの変異種であるデルタ株は、従来型のウイルスよりも感染力が強い上に、若者を重症化させる性質があると聞いています。かつて重症化リスクが指摘されていた高齢者に代わって、今や皆さんが命を失う危険にさらされた当事者であると自覚すべきです。特に学校生活の中で注意すべきは、マスクを外さざるを得ない運動や飲食の場面であると、専門家が注意を呼び掛けています。「食事は自席で」を徹底し、これまで以上に「黙って」食べることを心掛けてください。仮に、食事中に会話した相手の感染が判明した場合、私の権限においてあなたを出席停止とし、保健所に濃厚接触者として通告します。

夏休み中は多くの高校でクラスターが発生し、新聞記事となって報道されました。つい先日は、文部科学省から集団感染が発生した場合の、休校措置をとる基準が示されました。もしも、本校においてそうした事態が発生した場合にあっては、修学旅行を含め、今後行われる全ての行事について、「中止」を視野の真ん中に据えた再検討をしなければなりません。どうか、そのような悲しい事態を招かぬよう、協力をお願いします。学校内での感染防止は言うに及ばず、不要不急の外出自粛や人の多く集まる場所へ出向かないことなど、学校外での感染リスクを避ける行動を意識してください。恐れるべきは、「自分だけは大丈夫」とか「自分の周囲にいる人は平気」という、全く根拠のない限定感覚です。

繰り返して申し上げます。ここにいる全ての皆さんの協力が必要です。「てんでんこ」。自分の身は自分で、私たちの白井高校は私たちの力で守りましょう。終わります。